

岩手県立宮古病院 院長 佐藤 一



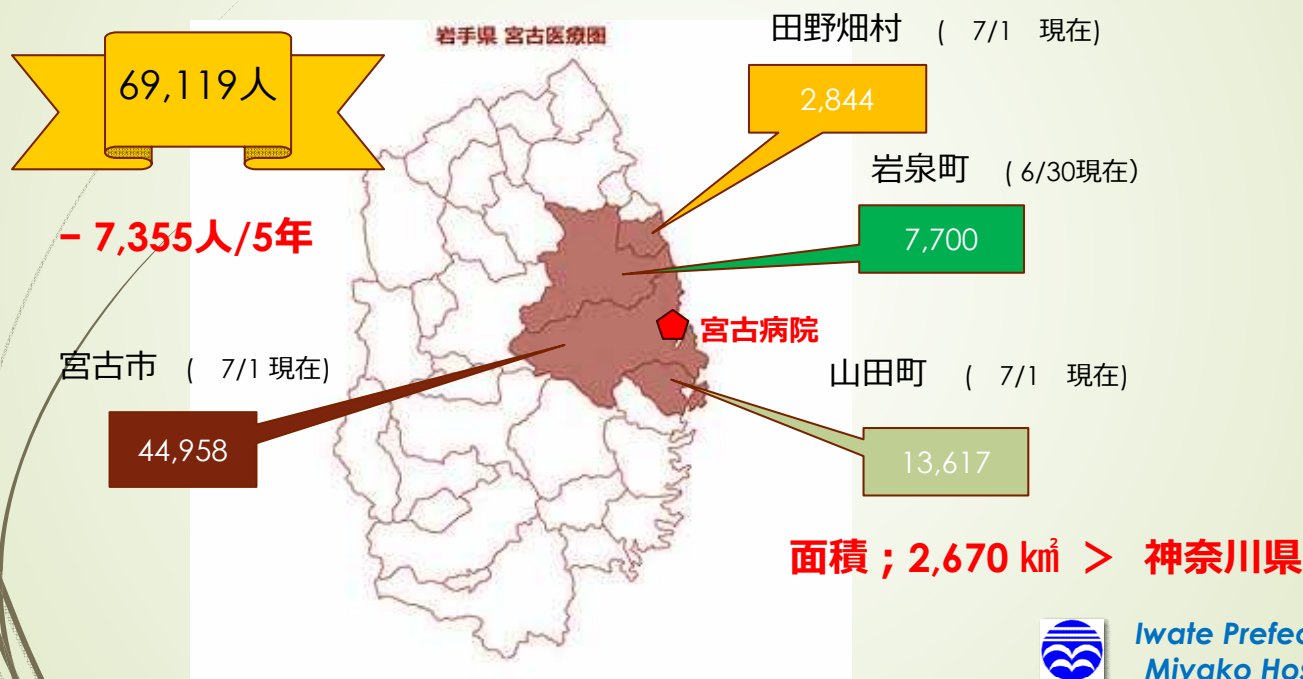
人口：2020年

2025年春 人口 69,119人
－ 7,355人/5年

宮古二次医療圏

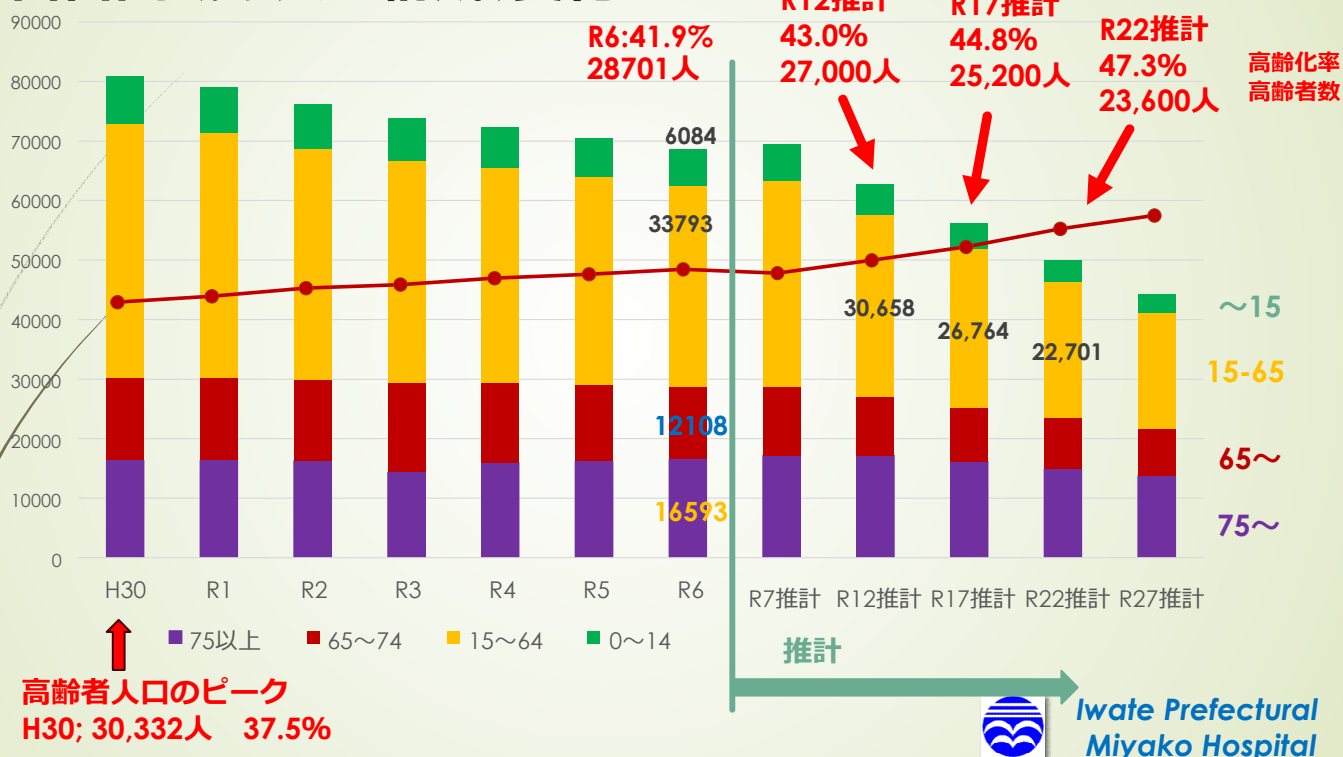
2

2025/7/1現在



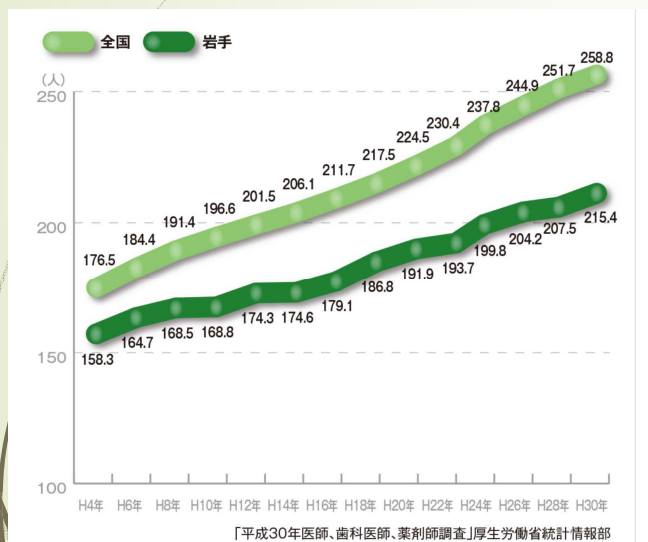
宮古圏域の人口構成、変化

3

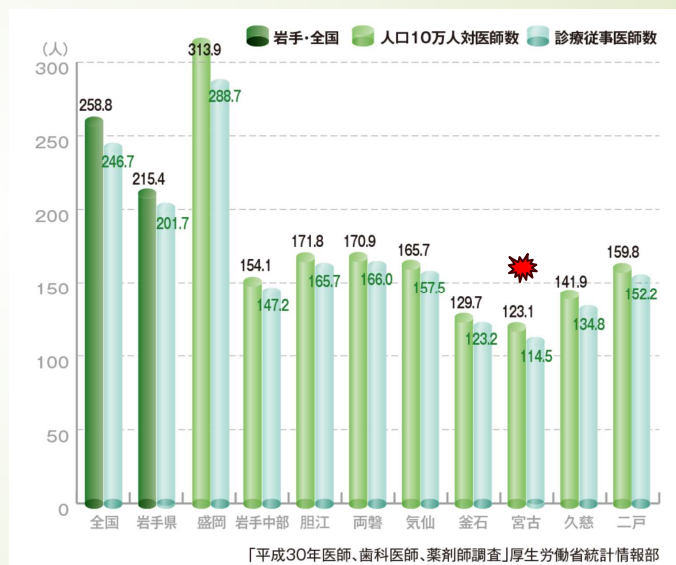


医師不足の現状

全国及び本県の人口10万人対医師数年次推移



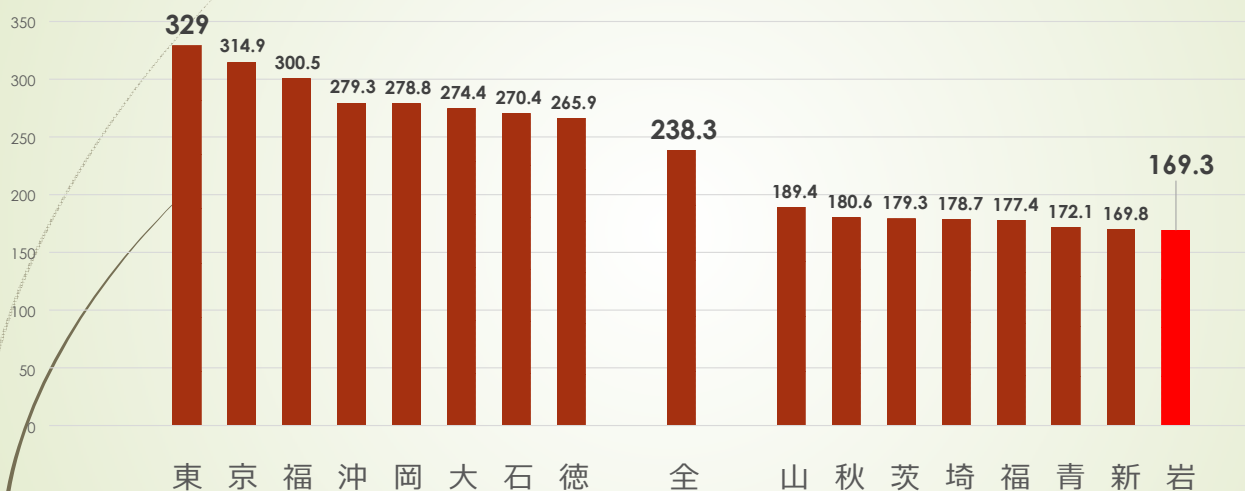
二次保健医療圏別人口10万人対医師数



Iwate Prefectural
Miyako Hospital

医師偏在指標 上位と下位の都道府県

グラフ タイトル

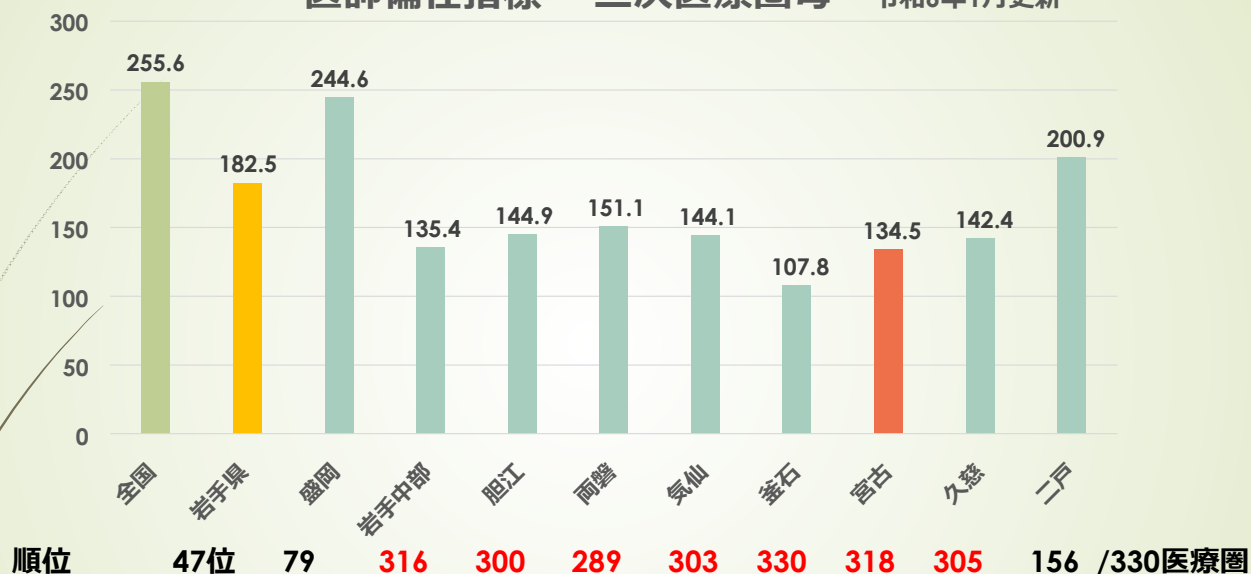


医師偏在指標は、人口10万人あたりの医師数に、地域の受療率（年齢や性別による医療需要の違いを考慮）や医師の労働時間などを加味して算出。



Iwate Prefectural
Miyako Hospital

医師偏在指標 二次医療圏毎 令和6年1月更新



医師偏在指標は、人口10万人あたりの医師数に、地域の受療率（年齢や性別による医療需要の違いを考慮）や医師の労働時間などを加味して算出。

6



Iwate Prefectural Miyako Hospital

診療科と医師数

注：R7年11月現在

	常勤在籍診療科	医師数
内科系	消化器内科	5
	循環器内科	4
	腎臓内科	1
外科系	外科	5
	整形外科	2
	脳神経外科	2
	泌尿器科	2
	形成外科	2
	小児科	3
	産婦人科	3
	放射線科	1
	麻酔科	2
計		32

昨年比 -2人

	応援診療科(週毎)	医師数
内科系	脳神経内科	2
	血液内科	3
	腎臓内科	1
	呼吸器内科	4
	糖尿病内科	3
	リウマチ・膠原病内科	1
外科系	心血管外科	1
	呼吸器外科	1
	小児外科	1
	眼科	1
	皮膚科	3
	耳鼻科	3
その他	麻酔科	1
	放射線治療科	2
	精神科	1
	病理診断科	1

研修医

3



常勤診療科へも応援医師有

診療応援医師 約55人/週



Iwate Prefectural Miyako Hospital

7

岩手県立宮古病院の概要

8

稼働病床数 :238床

(一般:229. 感染 :4 結核 :5)

(2025/3/31～現在)

医師 32 研修医 3

看護 222

(認定看護師 8, 看護補助 27)

薬剤師 13 リハ 16 管理栄養士 4

検査技師 16 放射線技師 13 CE 4

事務 32 クラーク 27 MSW 3

その他計 405名

令和6年度臨床指標

一日平均患者数：

入院 195人、外来 452人

病床利用率：83.7 %

救急車搬送患者：2,899件

救急患者数：7,837件

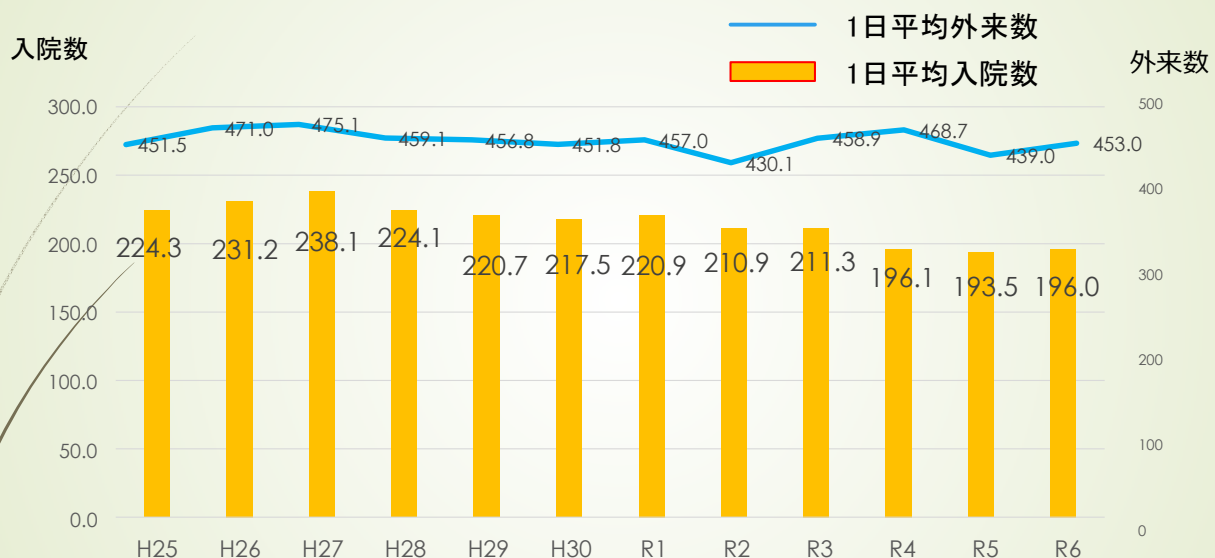
手術件数.：1,331件



Iwate Prefectural
Miyako Hospital

1日平均外来数・入院数の年度別推移

9



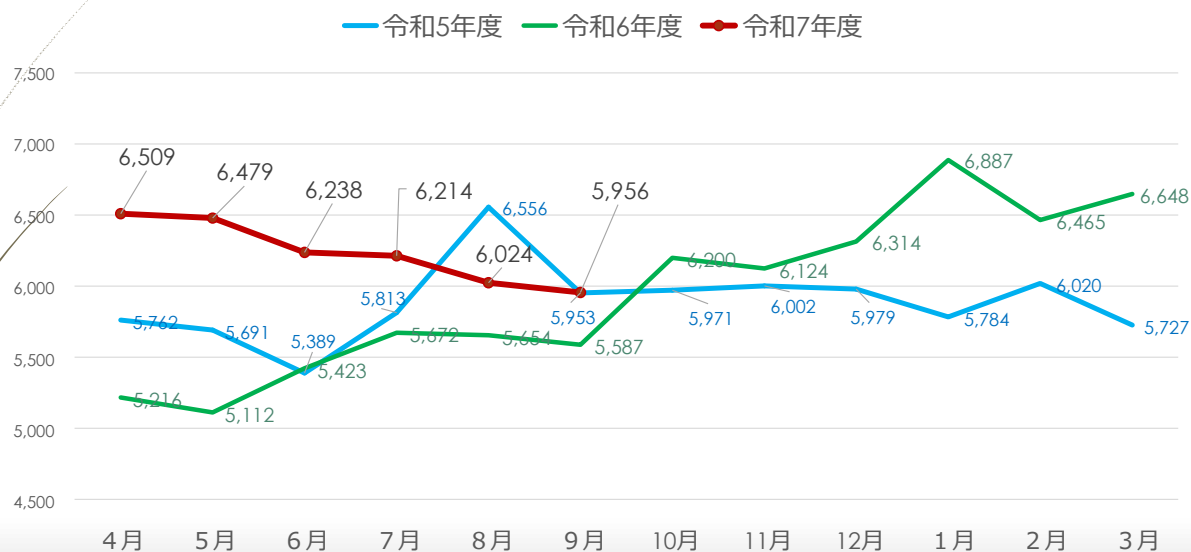
*



Iwate Prefectural
Miyako Hospital

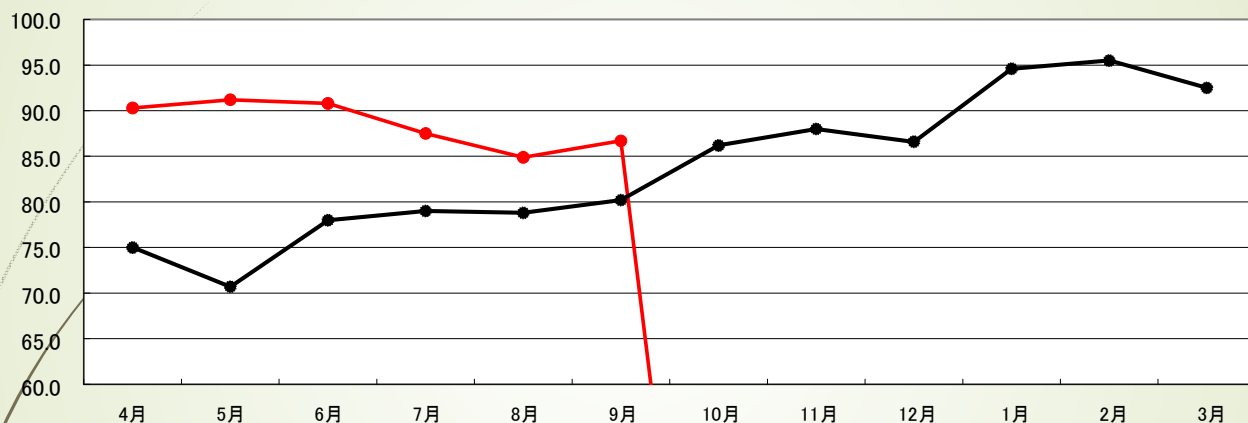
入院患者数の推移 R5～R7年度

入院延べ患者数



Iwate Prefectural Miyako Hospital

病床利用率(一般病床)

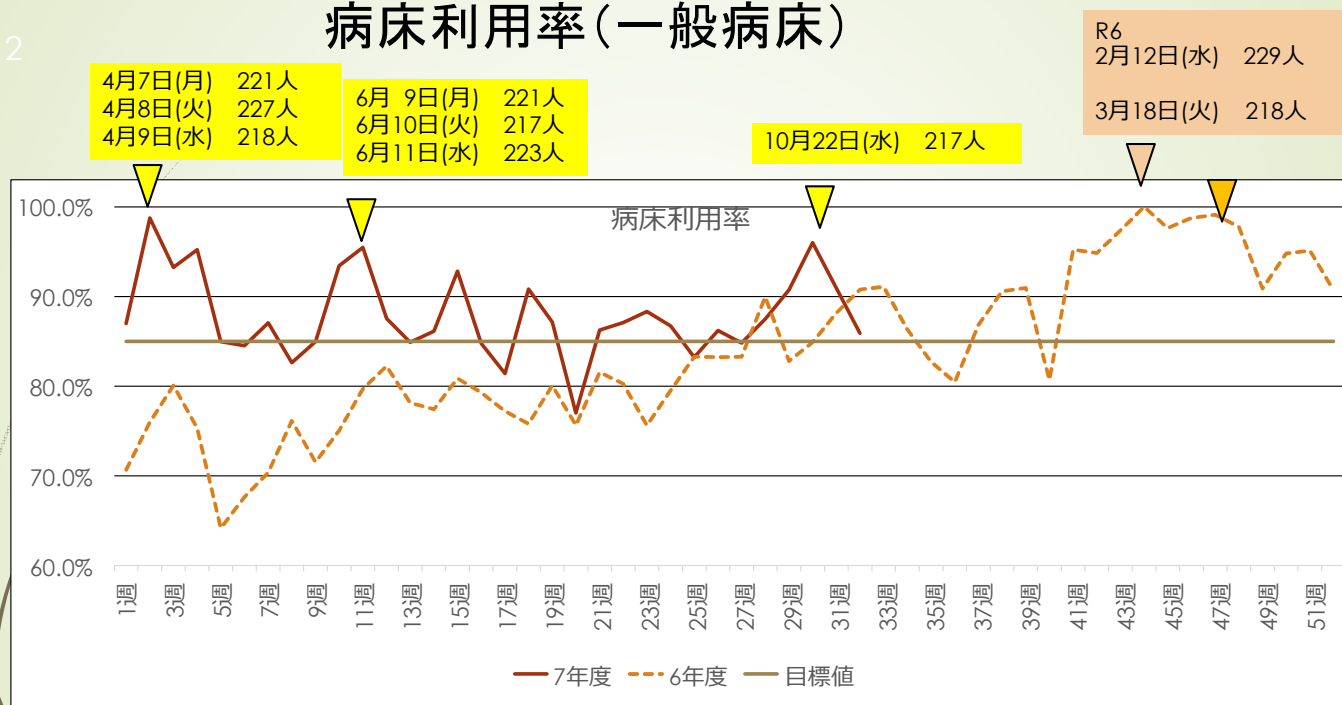


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
R7 a	90.3	91.2	90.8	87.5	84.9	86.7	--	--	--	--	--	--	88.2
R6 b	75.0	70.7	78.0	79.0	78.8	80.2	86.2	88.0	86.6	94.6	95.5	92.5	76.9



Iwate Prefectural Miyako Hospital

病床利用率(一般病床)



Iwate Prefectural
Miyako Hospital

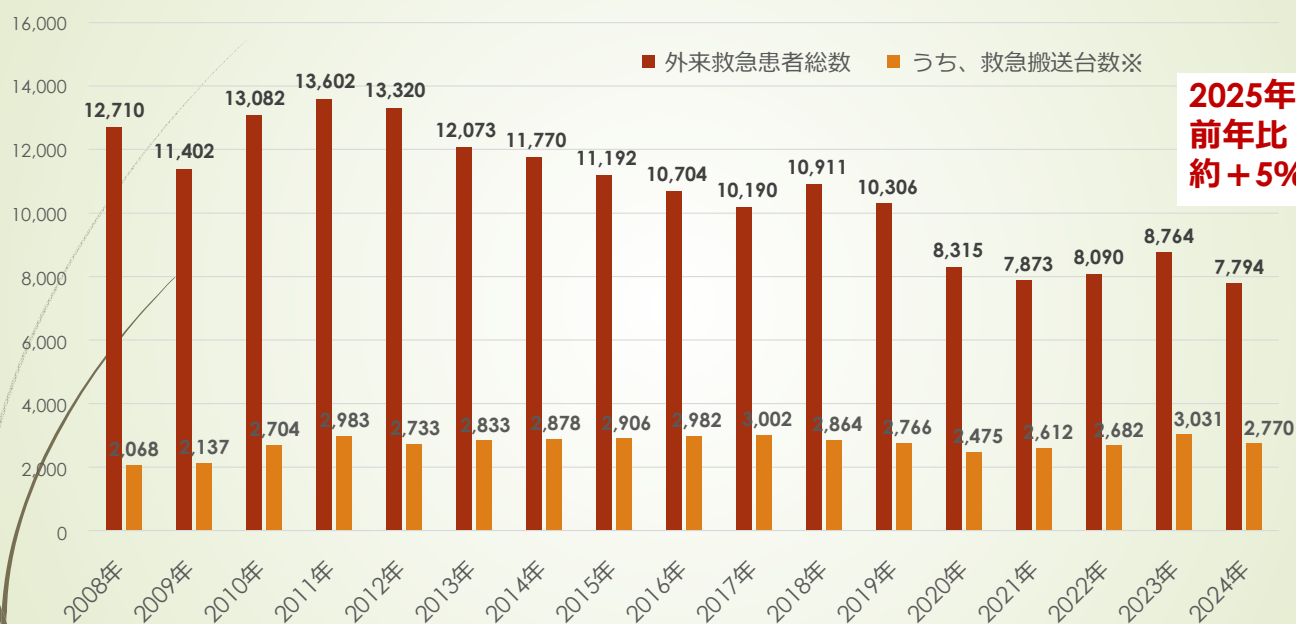
年度当初の病床コントロールの対応 満床警報の再整備

- 宮古病院では、入院患者数をコントロールすることは困難。
- 週に平均100人前後の入院（約80人～130人と幅は広い）
- 予定入院だけで30人以上の日もあり、平均約200人としても瞬間的に30～40の増減。 毎週入院患者の四割～五割が入れ替わる状況。
- 多くが高齢者である予定外入院の患者の退院調整はかなり難しい。
- 4月8日に院外へ向けて通知。退院転院患者の受入依頼、当院の受入制限の可能性。
- 直前の3月に満床警報を整備していたが、そのままでは、ずっと警報を出し続けることとなり、慌てて基準を改正。
- 発令基準の患者数引き上げ。
- 瞬間的な入院患者数での判断は困難、翌日以降の入退院予定まで考慮し、その都度院長の責任で判断することとした。



Iwate Prefectural
Miyako Hospital

宮古病院救急受診者数の推移



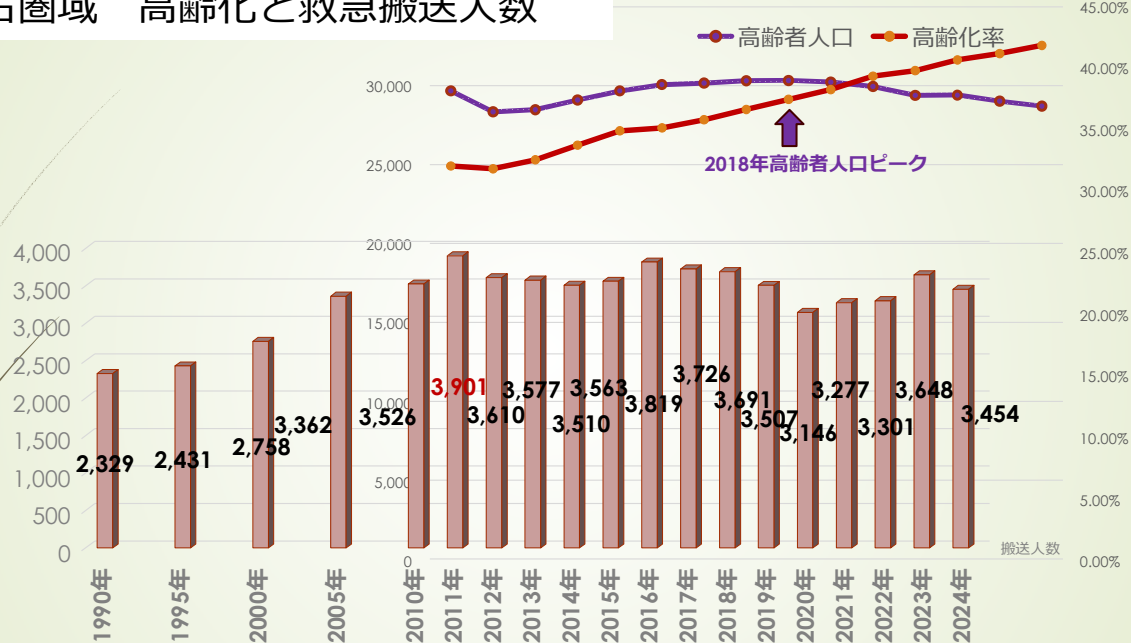
2025年度は
前年比
約+5%で推移

14



Iwate Prefectural
Miyako Hospital

宮古圏域 高齢化と救急搬送人数



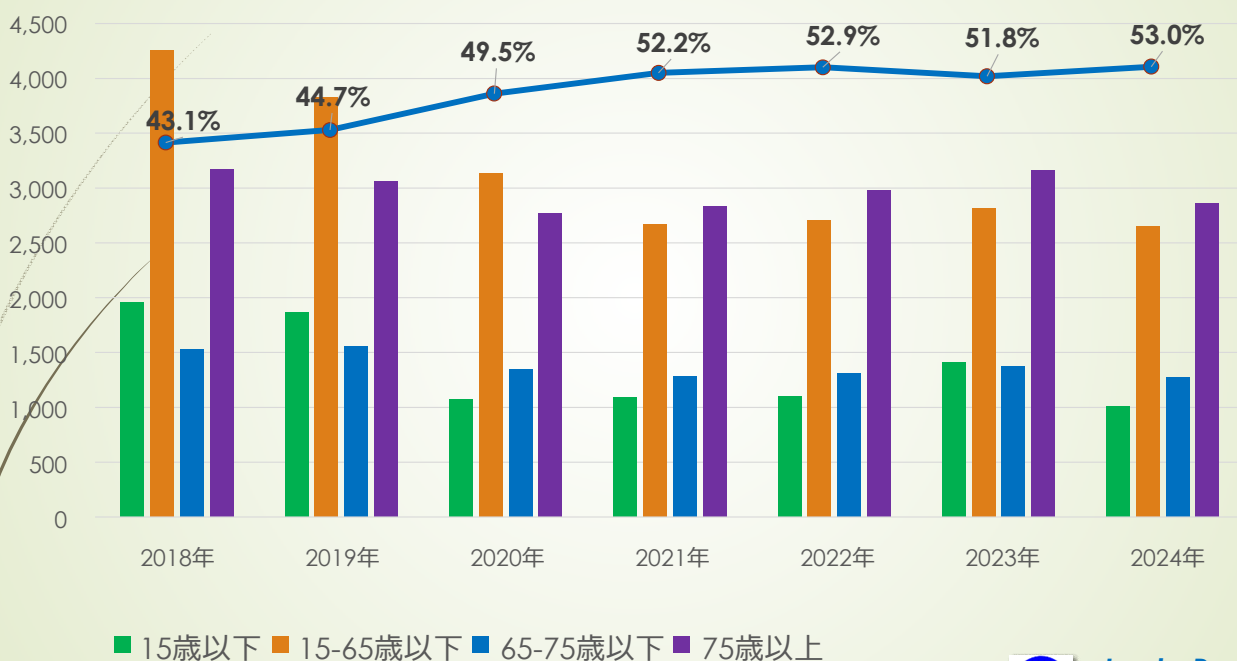
15



Iwate Prefectural
Miyako Hospital

宮古病院救急患者(年齢別)

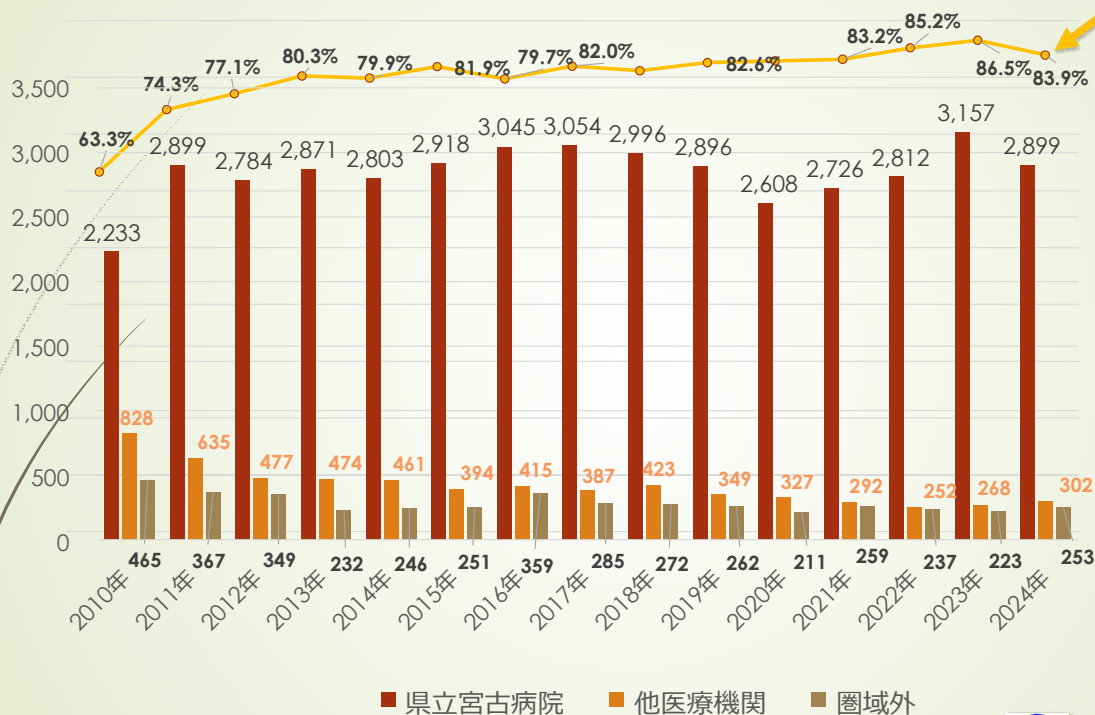
65歳以上
高齢者割合



Iwate Prefectural
Miyako Hospital

宮古病院救急搬送先受入れ人数、比率

県立宮古病院
受け入れ割合



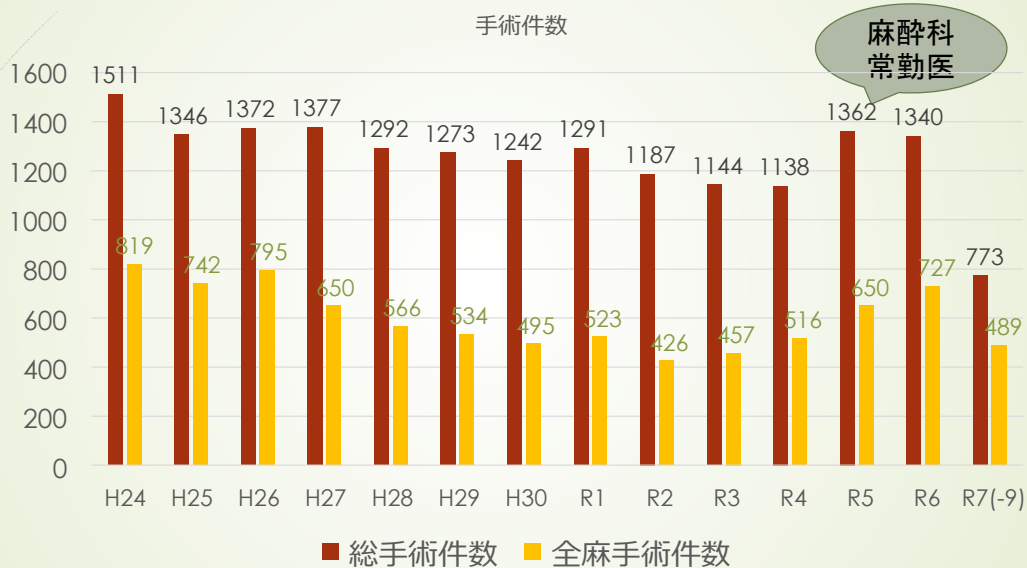
2022年 85.2%
2023年 86.5%
2024年 83.9%



Iwate Prefectural
Miyako Hospital

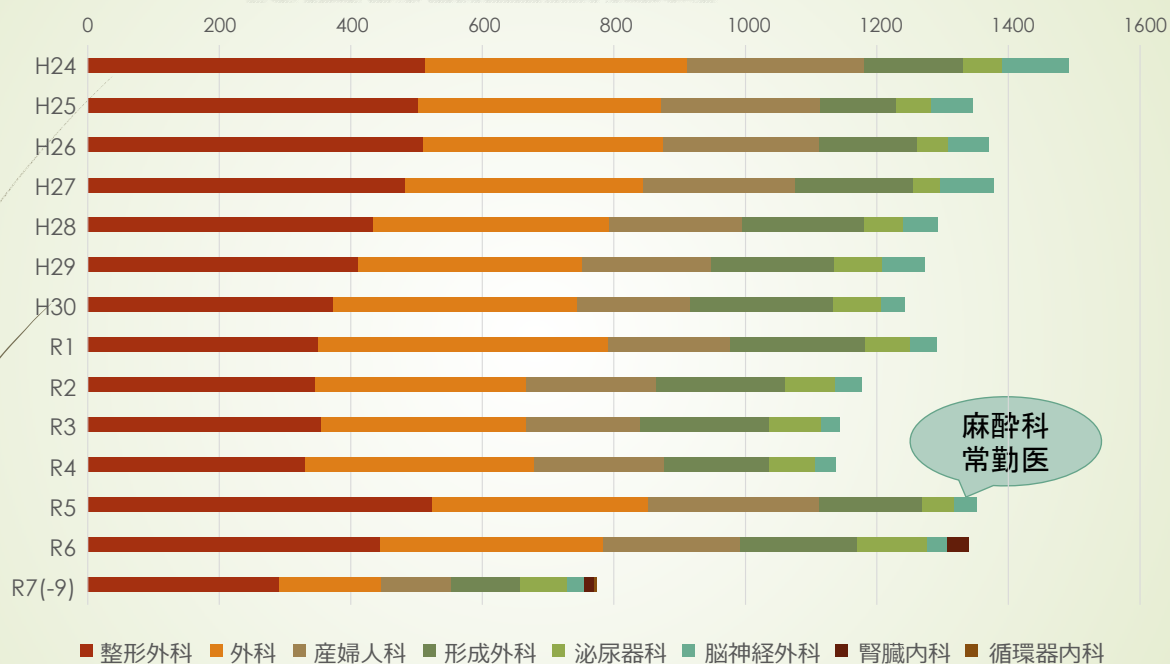
総手術件数と全麻手術件数

18



Iwate Prefectural
Miyako Hospital

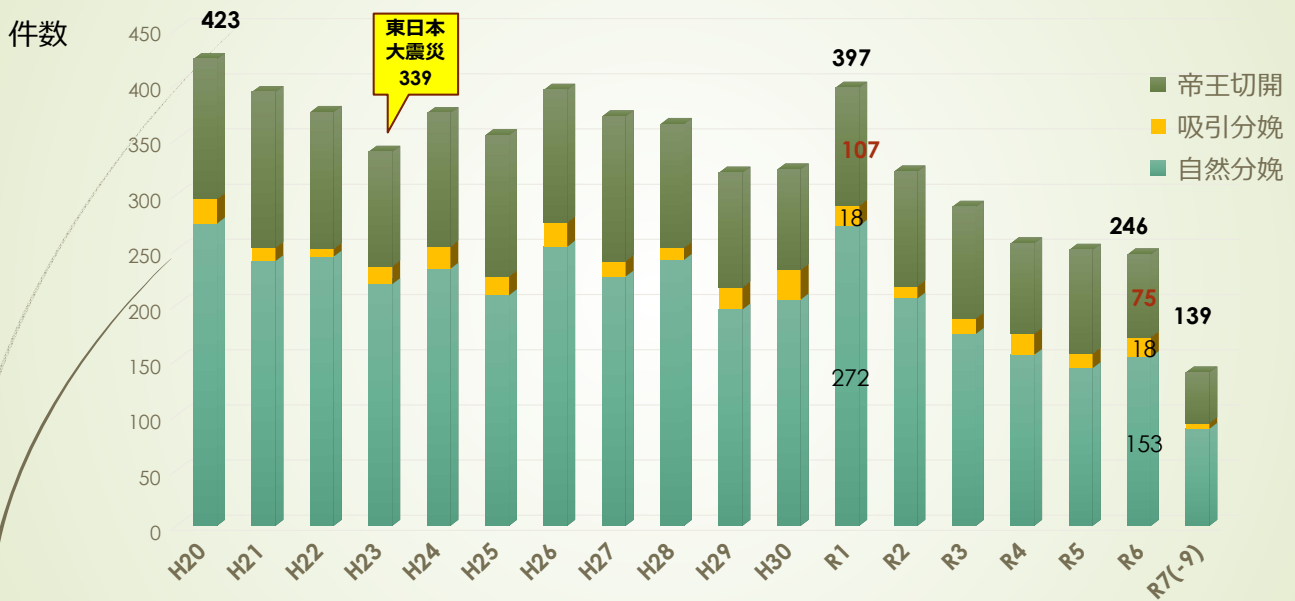
診療科別手術件数



Iwate Prefectural
Miyako Hospital

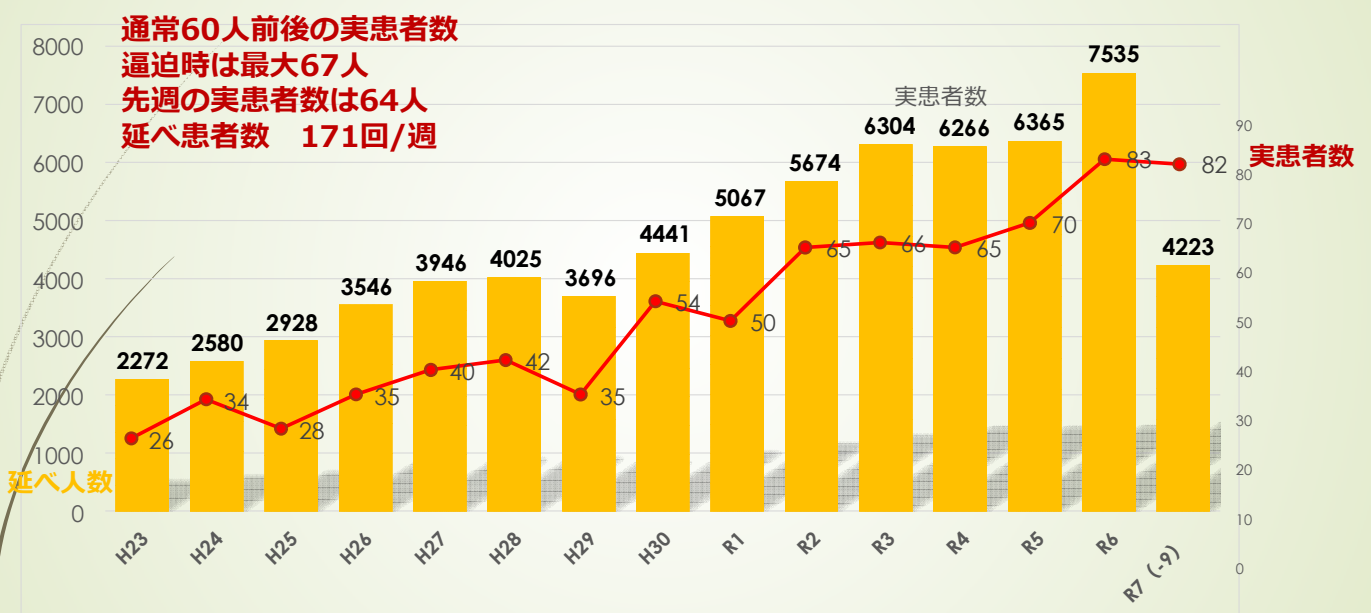
19

分娩数の推移



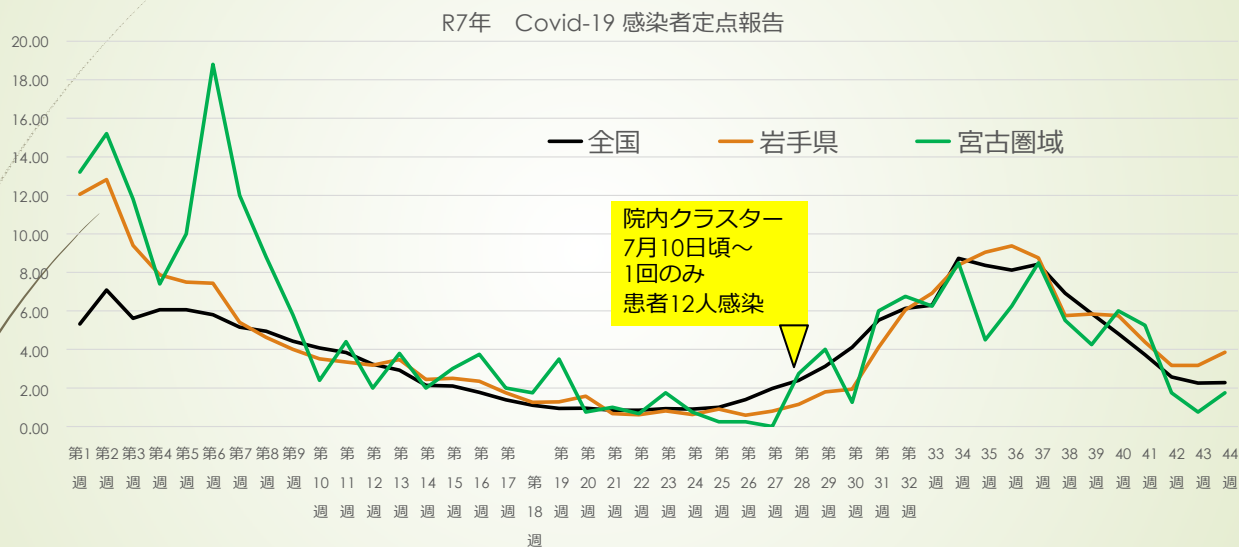
Iwate Prefectural
Miyako Hospital

人口透析の推移（実患者数、延べ人数）



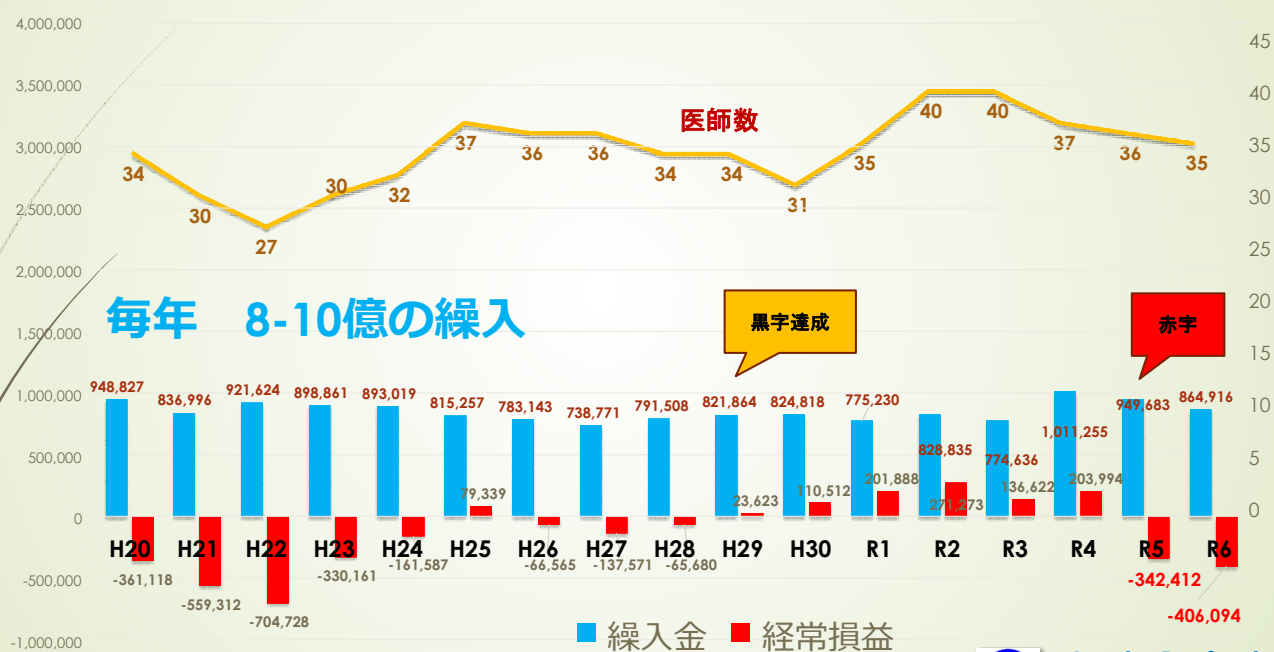
Iwate Prefectural
Miyako Hospital

新型コロナの現況



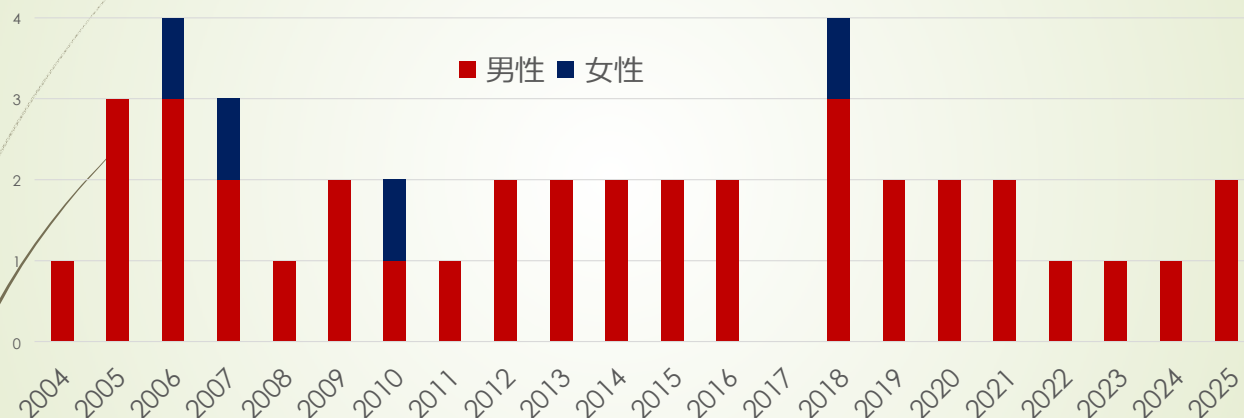
Iwate Prefectural
Miyako Hospital

県立宮古病院の収支推移



Iwate Prefectural
Miyako Hospital

初期臨床研修医数の推移



Iwate Prefectural
Miyako Hospital

オンライン診療

- 重茂診療所で開始も現在は利用者なし
日中、手伝う家族がいない高齢者は利用難しい
- 本院内で麻酔科などで少数回の利用のみ
- 自分で接続できる遠隔地の患者に広めていきたいところ
- 岩手医大や県立中央病院とを結んでの利用も検討中
他院の医師に担ってもらうには報酬等、様々な課題
- 現在、磐井病院等で行われている



Iwate Prefectural
Miyako Hospital

岩手県立宮古病院の役割

- ◆ 医療圏で唯一の急性期総合病院
- ◆ 圏域内救急搬送の85%程度を受け入れ
- ◆ 医師の半分以上が奨学金償還中の若手、それぞれが高いパフォーマンスで診療に従事
- ◆ ある程度高度な治療も可能（スキルのある医師の配置）
- ◆ 沿岸地域の他病院で撤退の周産期、小児、脳卒中診療など体制維持
- ◆ この数年で盛岡、地域外へのアクセスが劇的に改善
岩手医大、県立中央病院からの応援は得やすくなった



Iwate Prefectural
Miyako Hospital

27

宮古病院の現況 まとめ

- 地域の人口減少(1,200人/年)、少子高齢化が顕著。
- 数年前に比べて入院患者は減少しているが、コロナ禍を経て戻りつつある。
- しばしば満床近い入院で、満床警報も要し、平均在院日数を減らして空床確保。
- 救急患者数はコロナ禍で減少も、高齢者比率を上げて再び増加傾向。
- 総手術件数は、麻酔科常勤医着任もあり増加。
- 透析は年々患者数増加し逼迫。
- 分娩数が緩やかに減少、反して人口透析数は年々増加傾向
- 研修医は、平均2人/年と低水準



Iwate Prefectural
Miyako Hospital

人的な課題① 看護力

病棟

- 患者の質は7対1看護や救急センター、HCUのある病院と変わらない
- 10対1看護の病棟のみであり、ベッド稼働率が高い時期は、かなり少ないマンパワーで業務せざるを得ない
- 安全上の問題に加え、看護師の離脱の遠因にも
- 高齢者を十分な回復を待たずに退院させたり、高齢患者のケアと難しい高度ケアを同時進行で行うなど、おそらくかなりの負担感

外来（救急、透析、手術含む）

- やはりぎりぎりのスタッフで運営
- 特に透析は患者数増加に追いつかない設備
看護力で機器を効率良く稼働させることが必要だが、スタッフ不足



人的な課題② 医師の不足

- 麻酔医；今年度限りで1名退職
現在後任調整中、医大からは難しいとの情報で県立中央病院が頼り
※ 麻酔医師は義務償還に中小の病院勤務を免除することを検討中
- 整形外科医；岩手医大の事情もあり県立病院の整形外科医減少
当院は1名減で2名に、さらに1人はあと一年で定年
- 内科医； 総合内科、糖尿病内科、血液内科、呼吸器内科、神経内科などその時点で義務履行の医師がいないと維持できない
岩手医大の各医局でも人手不足
- 研修医 ； 岩手県内で当院だけ来年度の採用未定
- 運営を担う幹部候補の医師 ； 半分以上が義務履行の若手、診療以外に必要な業務を担う医師が育っていない



設備面の課題

昨年の大規模改修中止後の施設維持は？ 長期の継続使用を諦めている？

- 透析施設の拡充は必至、患者はまだ増え続ける見込み（喫緊の課題）
- 各所の騒音、換気不良、水漏れ等、設備の老朽化
- 時代にそぐわない設備； 病室、トイレ、駐車場（度重なる苦情）
- 職員宿舎：市中心部での建設、できれば借り上げが必要
- 執務場所の確保困難

地域連携、入退院支援、認定看護師、チーム医療など

建設時には無かった新たな業務に改修では対応不可能

これまで大きく病床削減しても、有効なスペースが生まれていない

結局、大規模改修していたとしても解決困難な問題が山積



Iwate Prefectural
Miyako Hospital

定まらない病院機能、将来像

- 経営計画において基幹病院の中でも当院は**ケアミックス**とされたが、、、
- まだ、5年以上は患者が大きく減ることはないだろう
- 病床稼働率が高く、救急、急性期患者も多く、高齢者の包括ケアに力を振り分ける余裕はしばらくない見込み
- 各診療科の医師は、当然内陸の病院と変わらない治療をする
医大でもそれを期待しての配置
- 古い施設と足りない人員でそれをどう支えるかが大きな課題
- 機能集約強化 ↔ ケアミックス 当院はどちらからも取り残され、収支改善への取り組みも困難
- 病床を減らしても有効なスペースが生まれない非効率な構造の病院

※今後、患者数は減少するであろうが、それでも早期に新築の検討が必要



Iwate Prefectural
Miyako Hospital

理想とする宮古病院像

- 地域の重症者を適切に治療できる体制（7対1看護 or HCU導入）
- 必要なケアがエリア毎に可能な体制
- 重症、急性期患者を棲み分けして 一方で 地ケア or 地メディ病棟を導入
 - 収益改善にも大きく寄与できる（まだそれだけの患者がいる）
- 医療レベル毎に部署を分けて、看護師等スタッフのスキルアップも図りたい。

危惧すること

- このままでは、スタッフ、特に看護師のモチベーションが維持できない。
- やりがいのある業務、自分で成長できる業務を与えないと人材も定着せず、退職を促すだけの施設になるのでは、、、実際なりつつある。
- 医師も義務的に短期で働く若手の医師は良いが、中堅、幹部候補の医師は育たない



Iwate Prefectural
Miyako Hospital

33

今後の取り組み

- 安定的な職員確保（看護師、医師、薬剤師 等）
 - 各方面への働きかけ
 - 休職、退職者を出さない職場環境（ハラスメント対策含む）
- 研修医の確保
- 救急、がん、周産期や透析医療等、地域の中核病院機能の維持
- 圏域内の医療、介護施設とのより緊密な連携
- コロナなどの新興感染症、災害対応体制の維持



Iwate Prefectural
Miyako Hospital

ご静聴ありがとうございました。

